

令和 3 年度 吹田市乳がん検診実施状況

【用語について】

マンモグラフィ併用検診

:乳がん(視触診・マンモ併用)検診。40 歳以上対象。視触診で異常がなければマンモグラフィを撮影し、2 人の医師の読影により検診結果の判定を行う。1 回/2 年受診。

視触診要精検:マンモ併用検診時、視触診の時点で要精検と判定されること。

初回・非初回:過去 3 年度以内に受診ありの場合は「非初回」、受診なしの場合は「初回」に分類。

【受診率の算出方法】

全国、大阪府と比較するため、国が示す算出方法に基づき算出。

・対象者数=国勢調査において報告された人数 - (就業者数 - 農林水産従事者数)

※平成 27 年国勢調査をもとに算出

・受診率

$$= \{ (\text{前年度の受診者数}) + (\text{当該年度の受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度における 2 年連続受診者数}) \} \div (\text{当該年度の対象者数}) \times 100$$

【受診者数の算出方法】

令和 2 年度本委員会報告

マンモグラフィ併用検診:当該年度内にマンモグラフィを実施し、翌年度の 12 月分までとして委託料を支払った件数

視触診要精検:当該年度内に視触診要精検となり、翌年度の 12 月分までとして委託料を支払った件数

令和元年度までの本委員会報告及び令和 3 年度本委員会報告以降

マンモグラフィ併用検診:当該年度内にマンモグラフィを実施し、二次読影を終えた件数

視触診要精検:当該年度内に視触診要精検となり、委託料を支払った件数

※昨年度の本委員会にて報告した受診者数とは異なります。

1 マンモグラフィ併用検診実施状況【令和3年12月末時点】

(1) 年次別受診者数¹⁾及び受診率

表1-1は69歳以下の受診実績を示したものである。令和2年度の受診者数は前年度比952人減少、受診率は3.4ポイント低下した。平成29年度以降受診者数は減少傾向にあったが、令和3年度の受診者数は前年度の同時期と比較して768人増加している。初回受診者の割合は、平成29年度以降ほぼ横ばいの傾向がみられている。

表1-2は全年齢の受診実績を示したものである。40歳以上全数においても、受診率・初回受診者の割合ともに69歳以下と同様の傾向であった。

表1-1 平成29年度～令和3年度(4～9月)マンモ併用検診実績(40～69歳)

	平成29年度			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (4～9月)
	個別	集団 ²⁾	合計				
対象者数(人)	36,046						
受診者数(人)	8,592	72	8,664	7,640	7,387	6,435	3,197
受診率			48.2%	44.1%	41.0%	37.6%	
初回受診者数(人)	2,771	34	2,805	2,226	2,281	1,928	
初回の割合			32.4%	29.1%	30.9%	30.0%	

表1-2 平成29年度～令和3年度(4～9月)マンモ併用検診実績(40歳以上全数)

	平成29年度			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (4～9月)
	個別	集団 ²⁾	合計				
対象者数(人)	68,000						
受診者数(人)	10,341	81	10,422	9,395	9,325	8,117	4,029
受診率			30.2%	28.3%	27.0%	25.1%	
初回受診者数(人)	3,205	40	3,245	2,614	2,728	2,248	
初回の割合			31.1%	27.8%	29.3%	27.7%	

1) マンモグラフィ併用検診の受診者数は、当該の年度末までにマンモグラフィの二次読影が完了した者を計上。

2) 平成30年3月21日に開催された「女性の健康フェスティバル」にて集団検診を実施。

(2) 年齢階級別受診者数及び受診率

過去3年度間のマンモグラフィ併用検診の受診者数を年齢階級別にみると、平成30年度は40～44歳が最多、令和元年度・令和2年度は50～54歳が最多であった。

受診率において、経年的には低下傾向ではあるが、3年度間ともに50～54歳が最も高い傾向がみられた。

表1-3 及び図1-1 平成30年度～令和2年度 マンモグラフィ併用検診年齢階級別受診者数

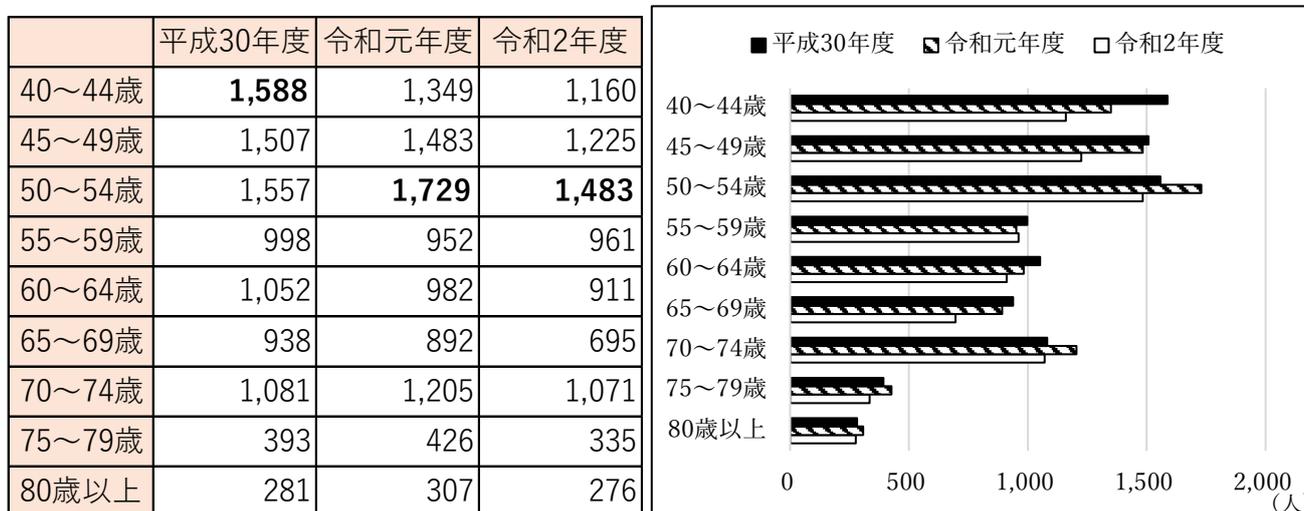
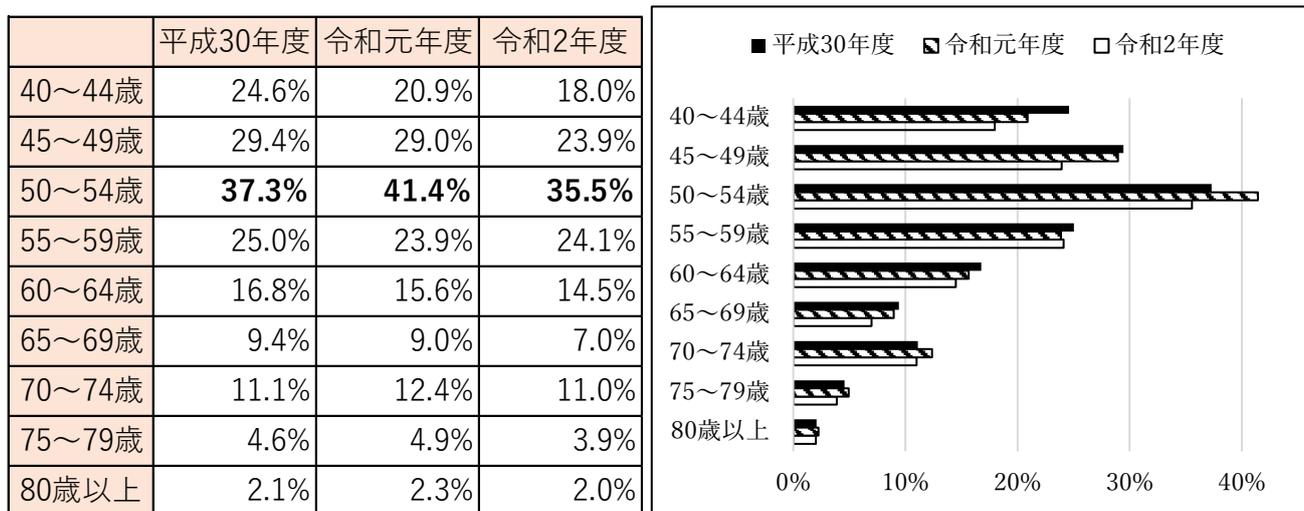


表1-4 及び図1-2 平成30年度～令和2年度 マンモグラフィ併用検診年齢階級別受診率



(3) 要精検者

令和2年度の要精検率は7.1%で、前年度比0.2ポイント減少しており、許容値の範囲内である。

精検受診率は経年的に見ても高水準を維持しているが、令和2年度はやや低下がみられた。

がん発見率は0.21%で、前年度比0.09ポイント低下しており、許容値を下回る値である。

陽性反応適中度は2.9%で、前年度比1.6ポイント低下しているが、許容値の範囲内である。

表1-5 平成29年度～令和3年度(4～9月)マンモ併用検診要精検者内訳(40歳以上全数)

	平成29年度			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (4～9月)	許容値	
	個別	集団	合計						
要精検者数(人)	902	3	905	761	682	580	297		
要精検率	8.7%	3.7%	8.7%	8.1%	7.3%	7.1%	7.4%	11.0%以下	
精検受診者数(人)	884	3	887	747	669	569	284		
精検受診率	98.0%	100%	98.0%	98.2%	98.1%	98.1%	95.6%	80.0%以上	
精 検 結 果 内 訳	異常なし	404	2	443	311	297	279	129	
	がん	18	1	19	29	31	17	9	
	早期がん(再掲)	16	1	16	22	26	照会中	照会中	
	早期がん割合	88.9%	100%	84.2%	75.9%	83.9%	—	—	
	がん疑い	0	0	0	0	0	0	2	
	乳腺症	120	0	120	138	70	50	29	
	繊維腺腫	72	0	72	50	40	46	22	
	嚢胞	176	0	176	172	165	122	67	
その他	57	0	57	47	66	55	26		
未受診	3	0	3	3	1	0	0		
未把握	15	0	15	11	12	11	13		
がん発見率	0.17%	1.23%	0.18%	0.31%	0.33%	0.21%	0.22%	0.23%以上	
陽性反応適中度	2.0%	33.3%	2.1%	3.8%	4.5%	2.9%	3.0%	2.5%以上	

2 視触診要精検実施状況【令和3年12月末時点】

(1) 視触診要精検者

令和2年度は5人が「がん」と診断されている。視触診の時点でしこり等が検出されるケースが要精検となるため、陽性反応適中度は高率である。

表2 平成29年度～令和3年度(4～9月)視触診要精検者内訳(40歳以上全数)

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (4～9月)
要精検者数(人)		99	80	82	60	28
精検受診者数(人)		96	78	79	59	25
精検受診率		97.0%	97.5%	96.3%	98.3%	89.3%
精 検 結 果 内 訳	異常なし	40	24	39	28	11
	がん	14	8	7	5	2
	早期がん(再掲)	7	2	2	3	1
	早期がん割合	50.0%	25.0%	28.6%	60.0%	50.0%
	がん疑い	0	0	0	0	0
	乳腺症	11	9	3	2	2
	繊維腺腫	13	7	5	5	3
	嚢胞	12	20	19	17	6
その他	6	10	6	2	1	
未受診		0	0	0	0	0
未把握		3	2	3	1	3
陽性反応適中度		14.14%	10.00%	8.54%	8.33%	7.14%

3 乳がんであったケースの詳細【令和3年12月末時点】

(1) マンモ併用検診

表 3-1 令和2年度 マンモグラフィ併用検診においてがんであった者

個人情報保護の観点より、詳細な内容は非公開とします。

表 3-2 令和3年度(4～9月) マンモグラフィ併用検診においてがんであった者

個人情報保護の観点より、詳細な内容は非公開とします。

(2) 視触診要精検

表 3-3 令和2年度 視触診要精検者においてがんであった者

個人情報保護の観点より、詳細な内容は非公開とします。

表 3-4 令和3年度(4～9月) 視触診要精検者においてがんであった者

個人情報保護の観点より、詳細な内容は非公開とします。

(3) 病期分類Ⅱ以上かつ非初回者の前回受診状況

表 3-5 令和2年度～令和3年度(4～9月)

個人情報保護の観点より、詳細な内容は非公開とします。

5 マンモグラフィ実施医療機関別受診状況

令和元年度～令和3年度(4～9月) 【令和3年12月末時点】

個人情報保護の観点より、詳細な内容は非公開とします。